



共同研究講座の看板を手にする福田学長（左から2人目）とNECの山田氏（同3人目）ら

弘大とNECが共同研究講座開設 AIで疾病リスク推定

岩木健診「新たな発見期待」 データ利用

弘前大学と日本電気（NEC、本社東京都）は、新たに共同研究講座「ヘルスケアAIシステム学講座」を開設した。NEC独自のAI（人工知能）やデジタル技術を活用して、弘前大が中心となって取り組む大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」の健康ビッグデータの研究を進め、脳卒中や心疾患、認知症といった多種多様な疾病の潜在的なリスクを推定するための研究開発のほか、多様化する社会の中で一人ひとりに寄り添ったヘルスケアサポートの提供を目指す。

NECは、1966年に日本初の診察報酬請求システムを開発して以来、50年以上にわたり、電子カルテ、内視鏡AI、創薬、少量の血中タンパク質から健康状態や疾病リスクの可視化など、医療・ヘルスケア分野に向けた多種多様なシステムや技術を提供している。共同研究を目的とした包括的連携は今回が初めて。

今年度の岩木健診では、NECが開発した歩行分析センサーを組み込んだインソールを使って歩き方の特徴、足の状態などを測定するほか、スマートフォンなど

顔の動画を撮影している。結果と他の健診データを分析して、病気の潜在的なリスクを推定、予防対策、生活習慣の改善につなげるとともに、医師の診断や治療の一助となることを目指している。

7日は弘前大医学部で講座設置開式が開かれ、福田眞作学長が日本を代表する企業である同社が参画したことを喜び、「岩木健診のデータとNECの独自技術で、新たな発見を期待している」とあいさつ。

同社Corporate SVP兼研究開発部門長の山田昭雄氏は、20年に及ぶ岩木健診の蓄積された多項目のビッグデータを「世界に類を見ない最高品質のデータ」と評価。COIネットワークが目指す地域共創社会の実現に賛同したと、健康寿命を延ばすため、持てる知識、分析テクノロジーといった技術を最大限活用して、一人ひとりの健康に寄り添った社会の実現を「一緒に目指していきたい。さらにはさまざまな先進企業と弘前大をつなげることで、社会により貢献できるのではないかと考えている」と意欲を示した。

（稲葉智絵）

COI関連の共同研究講座は7日現在で24講座となった。